

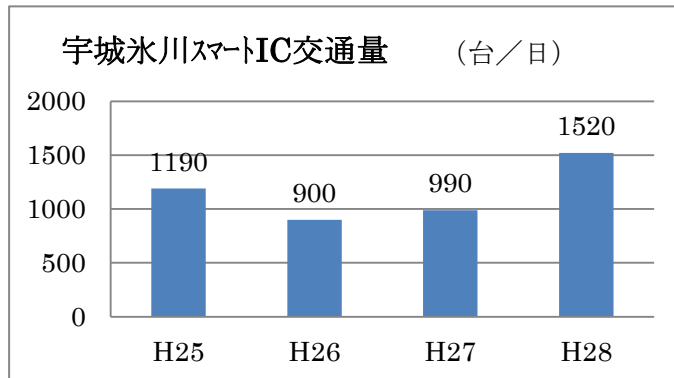
J R 小川駅周辺整備に係る検討経過等

1. 経緯

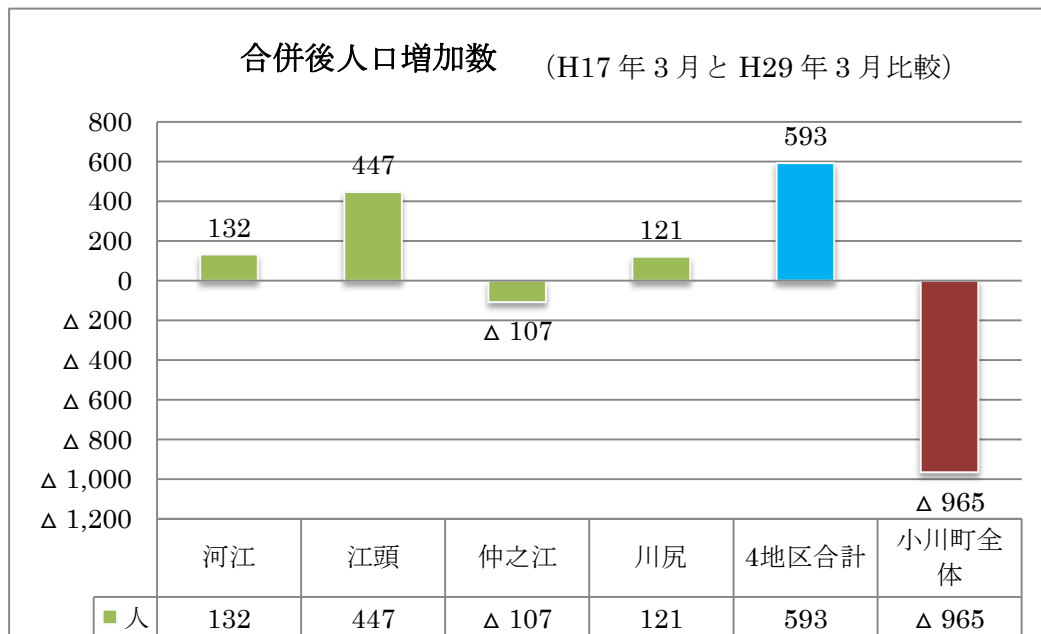
J R 小川駅は、鹿児島本線の停車駅であり本市の主要駅でもあるが、現在まで整備構想や計画等は策定されていない。

平成 26 年に宇城・氷川スマート I C 開通、さらに翌年には J R 小川駅近くの線路を跨ぐ県道竜北小川停車場線（跨線橋）が開通し、国道 3 号線のアクセスが向上し小川町の利便性が向上した。

宇城・氷川スマート I C の交通量は、開通翌年度は減少したが、国道 3 号線からのアクセス道が H28 年 3 月に完成し、その後増加傾向にある。



日本全体が人口減少時代に入り、市全体で人口が減少している中（合併後市全体 4,600 人減）、小川駅周辺の河江地区は数少ない人口が微増している地域になっている。合併後の人口で見ると、小川町全体で 965 人減少しているが J R 小川駅周辺の行政区（河江、江頭、仲之江、川尻）では 593 人増加している。特に江頭地区の増加数は市全体の行政区でも最も高く、増加率についても 44.2% と高い水準になっている。



本市の人口減少対策の一つとして、都市核の強化、コンパクトシティー化をとりいれるため、平成 29 年度に作成した第 2 次宇城市総合計画の基本構想「持続するまちづくり」の中で J R 松橋駅・小川駅周辺開発を重点プロジェクトと定め、本年 3 月の市長所信表明及び 6 月の施政方針の中で市長が議会に報告を行っている。

松橋駅については、平成 21 年に基本構想・基本計画を作成し整備を進めており、平成 31 年度末には駅前広場や駅西口の駐車場等が完成予定である。今後は小川駅の整備に着手する必要がある。

2. 必要性

JR 小川駅は県道竜北小川停車場線（跨線橋）が開通し国道 3 号線のアクセスが向上したが、周辺の駐車場が不足し、車を停めて JR を利用することに支障をきたしている。

そのため熊本市や八代市へ向かう乗降客の利便性に支障をきたしており、県が推進する交通渋滞緩和策のためのパークアイランド化についても現状では推進することができない。

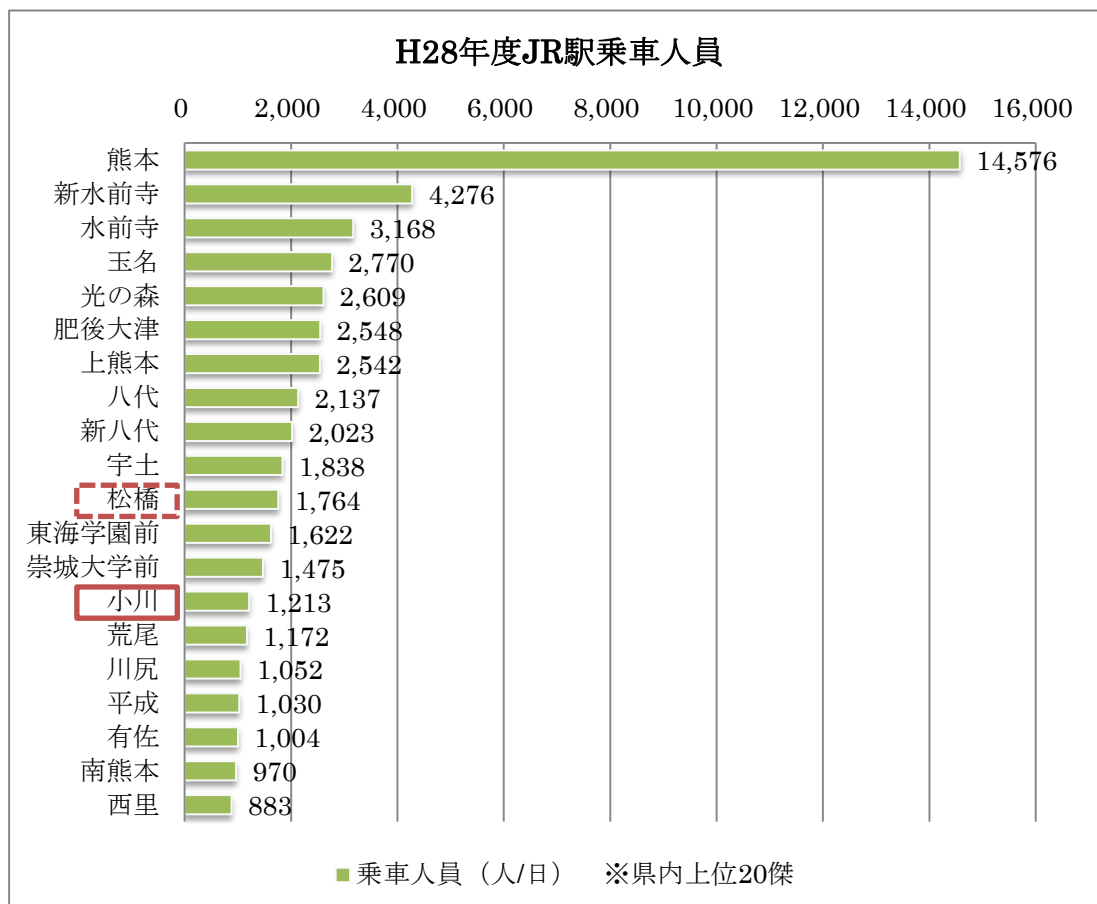
また、2021 年には J R 熊本駅の再開発ビルが完成し J R 利用者の増大が見込まれている。

駅周辺の現況としては、駅東側には小川工業高校、駅西側は、河江保育園、河江小学校と教育施設は整い、近隣には商業施設のイオンモール宇城があり、宇城市の中でも宅地開発が進んで人口が増加している地区でもある。

駅の乗車人員も一日当たり 1,213 人と県内でも 14 位であり、熊本市の駅を除くと、光の森、肥後大津、宇土、玉名、八代、新八代、松橋に次ぐ乗車人員である。

※松橋駅 1,764 人（12 位）

なお、小川駅よりも乗車人員が多い駅については、近年駅舎の整備が進んでいる。



駅西側には老朽化した仲ノ江団地があるが、退去と同時に解体予定であり、現在 15 棟のうち 2 棟解体し、51 戸中 14 戸が政策空き家となっている。

人口減少社会の対策のための定住化促進に向けた開発と、市営住宅の跡地活用を効果的に推進するため駅周辺整備に係る事業の基本構想が必要である。